

2021年11月例会「～新たな連携へ 県内の仲間と繋がるYEG～」

3月19日に実施されました！！

3月19日に行われました11月例会では、県連加盟のYEG 9単会が長岡市に集い例会が行われました。

広報委員会 発行

県連加盟YEG参加者60名余りにも例会に参加していただきました。

県連会長 馬場 一也 様



長岡商工会議所青年部会長 田中康雄



例会後長岡YEG会員の11飲食店に分かれてディスカッション

☆例会後の交流会では、各会場にて定められたテーマに沿ってディスカッションが行われました。テーマは「**新規法人の設立**」各会場に集まったメンバーで新規法人・新規事業を行うのであれば、どの様なものが想像できるかとうものでした。

県内地域の問題点を解決するための提案

一つは除雪の問題、除雪オペレーター不足や除雪事業者の低迷を問題に、IT、ICT、AIを活用して、機材手配その他を含めた除雪作業が出来ないかとの提案でした。また他の案では、農業と福祉の連携、取分け中山間地農林業の維持管理が今後の課題となってくるため、獣害対策としてドッグラン施設を整備すること、ドッグラン施設は地方と都市の相互交流も期待出来るのではないかと提案がありました。

YOUTUBEを媒体とした動画配信案の提案

ストレス社会と言われる今の時代に、犬や猫等動物の癒しを動画配信を介して提供するというものです。軌道に乗れば会費制イベント等も開催することが出来る点、動画配信サイトは海外にも繋がる点から収益を拡大出来るのではないかと提案がありました。

「合同会社ドロコプター(仮称)」として、ドローンを用いた配送サービスの提案

県内は山間地や過疎地域も多く、本来都市部よりも必要なサービスではないか、また、コロナ禍に於いては非対人サービスが主流となっていくのではないかとこの観点からでした。

問題点としては、収益を確保することとなり、行政との連携も不可欠ではないかとの議論が行われました。

地域の特産物を開発する法人を作りたいとの意見もありました。

具体的には、長岡市の名産「神楽南蛮」を使用した焼売の開発です。神楽南蛮は辛みのある野菜で、これを混ぜ込むことにより長岡市の名物である「長岡花火」と掛けて「長岡花火しゅうまい」として売り出すとの提案でした。

非対人サービスとは別の視点からの提案

「(株)コロンブスの卵(仮称)」として、コロナ禍で地域の繋がりが薄れていく中で、映像を見るだけではなく、実際に触れることで、楽しみながら想像力を養う場が必要があるのではないかとの提案、全国に各地域の名産や特産物を持ち寄ったアンテナショップ兼アミューズメント施設を展開して、名産の販売だけではなく、職業訓練や農業版キッザニアを併設することにより、教育の場としての機能を持ち合わせたいとの提案。

農作物の鳥獣被害を解決するためにジビエ料理を提供する飲食店を企画するという提案

料理を提供するだけではなく、音楽を楽しめる店舗として低迷するエンタメ業界を活性するために、地元ミュージシャンを育成したいとの提案

「新潟YEG都市開発機構(仮称)」として、県内YEGメンバーで小規模の商業施設を開発したいとの提案

YEGメンバー間の連携を活かして飲食店や物販店を運営するというものです。

「ごった煮会(仮称)」村上YEGの皆さんと交流のある山形YEGが行っている「芋煮会」をモチーフに、交流を促進する場を設けたいとの意見

交流が促進されれば、そこからビジネスに繋がっていくのではないかとのことです。

ご参加の皆様、熱いディスカッションを大変ありがとうございました。

何れの会場でも、現在、YEGメンバーが日頃考えている問題点や「こういう地域の未来を創造したい」「こういう新潟県にしたい」という熱い気持ちをこのディスカッションから伺うことが出来ました。

結びに、今例会で得た交流や気づきを、今例会で終わりにするのではなく、次年度、未来に向けて紡いでいくことが出来たら、嬉しいです。

YEGネットワーク委員会 委員長 佐藤 賢